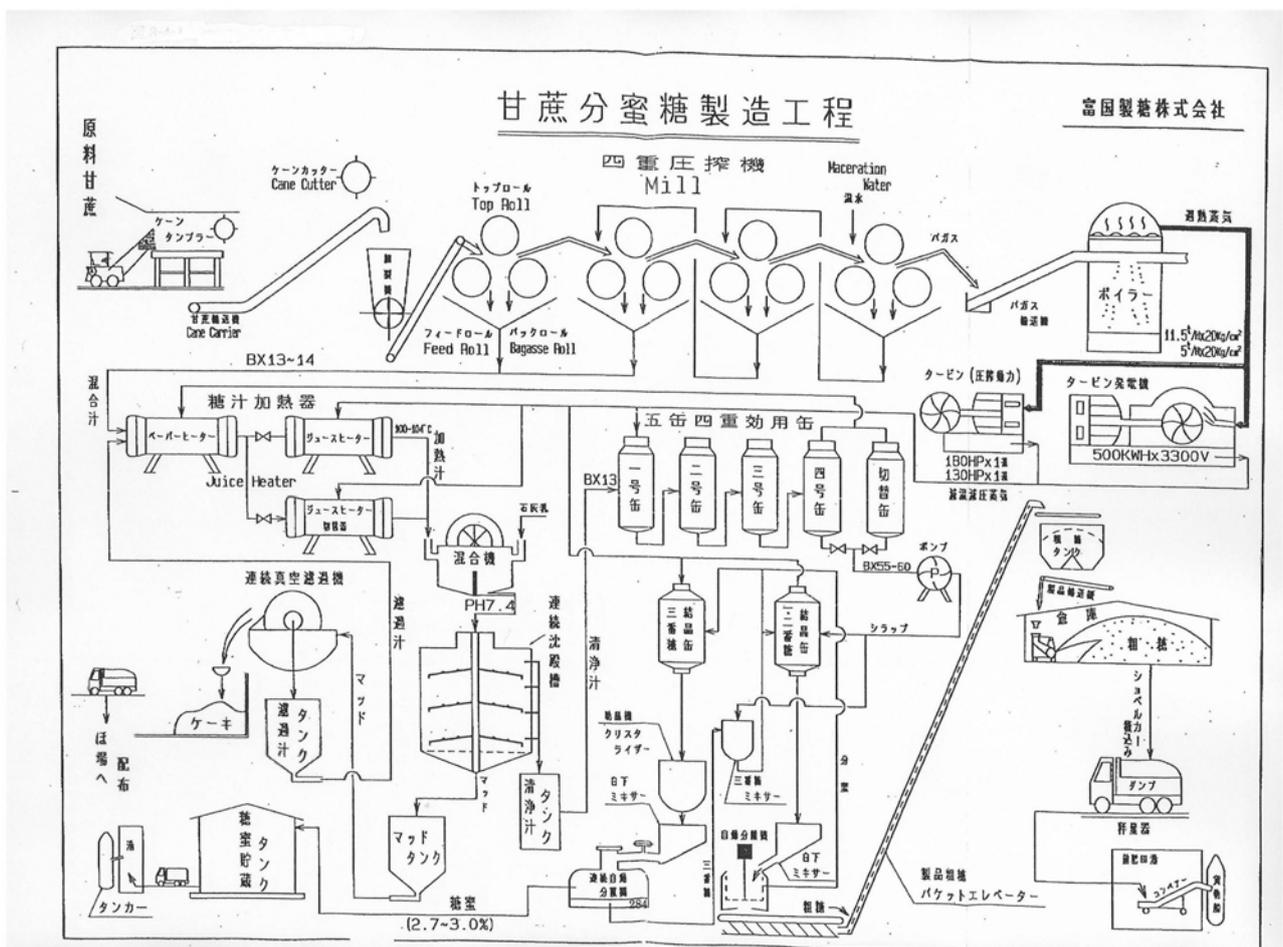


所在	奄美市笠利町里750	事業主体	富国製糖株式会社
問い合わせ先	TEL:0997-63-1511	見学	可能
施設名	奄美事業所	運転開始年	平成13年
出資比率	—	原料	バガス
利用法	直接燃焼蒸気発生、発電、動力タービン	原料調達費	サトウキビの圧搾工程で発生

システムフロー
(フロー図)



富国製糖 製糖工程図

システムフロー
(施設全景)



富国製糖工場外観(笠利町)



収穫後搬入されたサトウキビ



圧搾後のバガス(含水率40%)



平成13年導入した新規ボイラ

富国製糖株式会社笠利工場

施設仕様	最大燃焼容量104t/日、最大蒸気圧力1.96MPa、蒸気発生量11.5t/h、 蒸気発電タービン500kW
運転状況	製糖工場の操業期間は1月～3月までの約3ヶ月であり、ほかの9ヶ月は施設も休止となる。
コスト (イニシャルコスト)	・昭和36年設置 金額不明 ・平成12年ボイラー本体一部改造、平成13年発電タービン更新
コスト (ランニングコスト)	・稼働時期: 運転管理作業6名/日、洗缶剤56kg、pH調整剤224kg使用 ・整備時期: 整備作業4名/日
効果	圧搾工程で排出される圧搾後のバガスを燃料としてボイラで燃焼している。バガス5kgが重油1リットルに相当する。その蒸気で工場内の熱と電力(500kWh)および動力タービンによる圧搾機の動力の全てをまかなっている。
施設運営上の課題	利用エネルギーを賄うための最低量は日量460t圧搾量。富国製糖の工場を維持するには、年間35,000t～40,000t程度の圧搾原料が必要であるが、最近ではサトウキビの生産が減っている。